

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2019年2月18日

2018年度 30名に配布 23名回答

事業所名:
児童発達支援 西宮たんぼぼ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			年度	はい	どちらともいえない	いいえ	分からない		
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	廊下や階段下もスペースとして有効利用している。	2016	88.5%	11.5%	0.0%		・子どもの人数が増えなければ十分です。	療育や個別、各事業ごとに、更なる有効利用に努めます。
			2017	81.2%	18.8%	0.0%			
			2018	91.3%	4.35%	0.0%	4.35%		
	2 職員の適切な配置	子ども一人当たりに対する職員数の確保はできているが、職員同士の連携等の工夫が必要。	・子ども一人当たりに対する職員の数は十分であると思います。	2016	69.2%	30.8%	0.0%		それぞれの事業がチームで円滑に運営できるよう、連携の強化や役割分担等の工夫を考えていきます。
2017				81.2%	18.8%	0.0%			
2018				87.0%	4.3%	0.0%	8.7%		
3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	子どもたちの発達状況に応じてわかりやすい環境設備の工夫を心がけている。		2016	88.5%	11.5%	0.0%		療育室の間仕切りの仕方や、一日の流れや活動の手順等、子どもたちの発達に応じた設備の工夫をしていきます。	
			2017	93.7%	6.3%	0.0%			
			2018	91.3%	0.0%	0.0%	8.7%		
4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	整理整頓への意識は少しずつではあるが、高まってきている。		2016	88.5%	11.5%	0.0%		各職員が業務の時間を有効活用し、日々清掃、整理整頓を意識して行っています。	
			2017	81.2%	18.8%	0.0%			
			2018	87.0%	0.0%	0.0%	13.0%		
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員が積極的に参加して目標設定を行ったが、振り返り→新たな目標設定、といったPDCAサイクルがなされないままのことも多かった。	/					職員の積極的な参加がなされるようになってきているので、さらにPDCAサイクルがスムーズに繰り返されるための話し合いを設けていきます。	
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	西児連による相互評価を行っている。	/					他事業所を見学し、相互評価を行うことで明確になった改善箇所(例、非常時の対応)を積極的に見直していきます。	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・研修機会の確保は充分なされているが、職員の意識がやや受け身的なところがある。	/					職員が自発的、積極的に参加できるような研修方法、研修内容をチームで考えていきます。	
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	今年度よりモニタリング会議をチームで行った。複数で子どものニーズや課題を話し合うことで、様々な角度から分析し、支援計画を立てることができた。	2016	76.0%	24.0%	0.0%		来年度もモニタリング会議が継続できるよう、時間確保を工夫し、複数の目でニーズや課題を客観的に分析していけるよう努めます。	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	今年度は集団療育の中で個別にかかわる時間を別途組み入れ、より支援計画の作成を充実させた。	2017	68.7%	25.0%	0.0%			来年度も個別にかかわることを継続的にを行い、支援を明確化していく。月のミーティングなどによって適宜変更も加えて、柔軟に対応していきたい。
			2018	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	年度					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容		
			はい	どちらともいえない	いいえ	分からない				
適切な支援の提供	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	できるだけ具体的に支援内容が記載できるよう、各職員が意識して取り組んできたが、さらに研鑽を積んでいく必要がある。	2016						こどもにとって必要な支援内容を具体的に記述できるように、職員の観察力を研修や会議によって深めていきます。
			2017							
			2018	82.6%	13.0%	4.4%	0.0%			
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	日々の記録用紙に支援計画の支援目標を記載し、そこからその日の療育内容を明確化することで、適宜計画に沿った支援が実施できているか意識しながら療育を行えるようにした。	2016						支援目標をもとに記録用紙をさらに有効に活用し、適切な支援が行えるようにしていきます。
			2017							
			2018	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%			
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	各クラスごとにクラス会議、運営会議、全体職員会議等も行い、チームで立案していきやすい体制が整ってきた。しかし限られた会議の時間をどう有効に使うかは課題。	/					職員会議、クラス会議などの立案の場でもより活発に意見が出るように努めていきます。同時に限られた時間で有効に話し合えるような会議の組み立て方を工夫していきます。	
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、土曜、長期休暇とも、それぞれ特色のある療育内容を打ち出している。	/					さらに、子どものニーズに添って、きめ細やかな支援、プログラムが展開できるよう、チームにて実践していきます。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	日々の活動の中でこどもの興味関心に合わせ、内容の工夫を行った。また今年度の個別療育の時間には、個々の成長、課題に合わせた支援が行えるよう努めた。個別を行うことでより細やかな支援ができるようになったが、予定どおりに進まない日があったことが課題。	2016	73.1%	23.1%	3.8%		・活動は固定化している部分があるとは思いますが、教育上、繰り返し行うこともとても重要なことなので、そのままでもよいかと思えます。	個々の成長に応じた支援が行えるよう、来年度も引き続き個別の時間を設けます。こどもの登所時間の確認をしたり、職員の役割分担をしっかりと確認したりし、個別療育が定着できるようにしていきます。
			2017	62.4%	25.0%	6.3%				
			2018	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%			
8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	児童発達支援事業クラスは朝の開始前に、放課後等デイサービスクラスは昼の開始前に、それぞれ打ち合わせの時間を設けている。放課後等デイサービスの打ち合わせが他の会議等の延長で時間通りに行えない日がある。	/					職員の一日の仕事内容や時間の使い方を見直し、打ち合わせのための時間確保ができるように努めていきます。		
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎日療育が終わったあとにミーティングを行っている。情報を共有化し、共通の認識をもつことができている。しかし振り返りの時間が本来の時間を超え、長時間に及ぶこともある。	/					振り返りの時間の時間分配を工夫し、ミーティングの合理化を努めます。		
10	日々の支援についての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	今年度は記録用紙を見直し、療育に活かせる記録の取り方を見直した。以前に比べて記入しやすく検証しやすい形になってきたが、限られた時間の中で簡潔に、要点を押さえた書き方の徹底が必要。	/					職員間で意見を出し合い、更により書きやすく、理解しやすいものにしていきます。また簡潔に、要点を押さえた書き方ができるよう、研修や会議等で職員のスキルアップを目指します。		
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的にモニタリング会議を実施し、職員同士で支援計画の見直しを行っている。	/					半年に一度のモニタリング会議以外にも、日々の療育の中で常に支援目標の達成度を検証し、必要に応じて柔軟に見直しができるようにしていきます。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	年度					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらともいえない	いいえ	分からない		
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	療育中に会議があることから「最も」とはいかないことも多いが、よりふさわしい者の参画を心がけている。					体制を工夫したり、職員間での共有を工夫したりしながら、よりよい参加ができるよう検討していきます。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	必要な場合は他機関と連携し適切なケアが行えるように努めている。					関係機関と書面、電話での連絡等で綿密に連絡を取り合えるようにし、さらに連携を深めていきます。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	必要に応じ主治医との連絡体制を整備している。					こどもに適切なケアが行えるよう必要に応じて主治医と連絡をとり、連絡体制の強化に努めます。
	4	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所間で情報共有と相互理解に努めているか	より積極的に保育所や幼稚園等との情報共有が必要。					就学前児童の受け入れ時には情報共有と相互理解に努めます。
	5	他事業所へ移行する場合それまでの支援内容等の情報を共有しているか	転園される方などには、引継ぎ書の作成も行っている。					引継ぎ書の作成を継続して行うと共に、作成したものが伝わりやすいものであるか検討していきます。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・子ども未来センターと連携をとったり、研修の受講の機会を確保したりしている。					今後も児童発達支援センター等と連携を取り、西児連の研修にも積極的に参加をしていきます。
関係機関との連携	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・児童発達支援は法人内の小規模保育施設との交流や近郊の幼稚園との交流を行った。 ・放課後等デイサービスは長期休みに一度、市外の児童館に行き、交流を行った。 ・地域開放行事を行い、地域の子どもと交流する機会の提供を行った。					今後法人内の小規模保育施設との交流、近所の幼稚園などとの交流を積極的に行っていきます。また図書館などの公共施設の利用も検討したり、その他交流の機会を増やせるよう努めます。
			2016					
			2017					
		2018	43.5%	17.4%	8.7%	30.4%		
関係機関との連携	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	作品展の開催、法人行事、講座等、地域に根差した活動を積極的に取り入れ、地域とのつながりを深めている。					法人行事や講座等で参加者に記入していただいているアンケートを活かしながら、今後も地域に開かれた場所となるよう努めます。
			2016	84.6%	15.4%	0.0%		
			2017	87.5%	12.5%	0.0%		
		2018						
保護者への	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	面談時や毎日の送迎時等に説明を行っているが、保護者にご理解していただける丁寧な説明がさらに必要。					一方的なお伝えだけでなく、保護者の不安な部分、不明な部分に対し丁寧にお応えしていきます。
			2016	84.6%	15.4%	0.0%		
			2017	81.2%	18.8%	0.0%		
			2018	86.95%	4.35%	4.35%	4.35%	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	日頃の具体的な支援の様子などもお話ししながら、できるだけ具体的に説明できるよう心がけた。					後期の支援計画の懇談時間について、保護者からアンケートをとっている最中です。この結果をもとに、丁寧なお伝えをするための時間配分、体制の見直しを考えていきます。
			2016					
2017								
		2018	95.7%		4.3%			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	年度	現状評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
				はい	どちらともいえない	いいえ	分からない	
の 説 明 等	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	児童発達支援・つぼみクラスにはペアレントプログラム、放課後等デイサービス・わたぼうしクラスにはペアレントトレーニングを隔年で行っており、今年度はわたぼうしクラスを対象にペアレントトレーニングを行った。	2016	52.0%	48.0%	0.0%		保護者のニーズに添って、回数、内容等の見直しを行っていきます。
			2017	81.3%	12.5%	0.0%		
			2018	82.6%	8.7%	0.0%	8.7%	
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時の保護者とのやりとりを大切に、こどもの日々の様子や課題等について共通理解できるよう努めている。	2016	76.5%	15.4%	7.7%		今後はさらに、療育内容の意図、課題等をよりご理解いただけるようなお伝えの方法を工夫していきます。
			2017	87.5%	12.5%	0.0%		
			2018	95.7%	0.0%	4.3%		
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時の保護者とのやりとり、連絡帳等のやりとりを丁寧に、必要によっては事業所内相談を行っている。	2016	76.9%	19.2%	3.9%		今後も送迎時のコミュニケーションを大切に、気軽に相談していただける雰囲気を作っていきます。また事業所内相談を周知して、よりよい支援を進めていきます。
			2017	74.9%	18.8%	6.3%		
			2018	95.7%	0.0%	4.3%		
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	今年度は放課後等デイサービス・わたぼうしクラスはペアトレ時に参加者を募っての交流を図った。児童発達支援・つぼみクラスは現時点は保護者交流会を開催していない。 ・法人行事、地域開放講座、公開講座等で保護者交流も同時にできているようにも思う。 ・今年度、父の会、発足。	2016					今年度発足した父の会が今後保護者同士の連携の場へと発展していけるよう、活動を見守っていきます。児童発達支援・つぼみクラスで保護者同士の連携支援の場を確保していきます。
2017								
2018			71.4%	9.5%	4.8%	14.3%		
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・迅速に会議をもち、対応へとつなげている ・たんぼぼのポストが苦情受付ポストを兼ねているということを分かりやすくお伝えする徹底ができなかった。	2016	75.0%	20.8%	4.2%		たんぼぼのポストが苦情受付ポストを兼ねていることを周知していただけるようお手紙を作成したり、苦情を記入していただく用紙をお配りしたりして、体制の整備を分かりやすいものにしていきます。	
		2017	68.8%	25.0%	6.3%			
		2018	57.1%	9.5%	4.8%	28.6%		
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・登所、降所時に保護者の気持ちに寄り添った意志疎通を心がけている。 ・常によい疎通ができるよう保護者の発信を汲み取るようにしている。	2016	80.8%	15.4%	3.8%		子どもや保護者の方と意思の疎通がしっかりできるよう、今後も子どもや保護者の発信をしっかり汲み取ってまいります。	
		2017	87.5%	6.3%	6.3%			
		2018	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%		
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・クラス便り、療育通信、ホームページにて活動概要や行事予定を発信している。また連絡体制等のお知らせがある時にはその都度お手紙を配布。 ・年に2回会報を発行している。	2016	96.2%	3.8%	0.0%		引き続き、定期的なクラス便り等の発行を行い、施設内の情報をより細やかに発信していきます。またホームページのご紹介、会報のご案内等を行い、発信したものを保護者の方々に知っていただけるよう、周知に努めていきます。	
		2017	87.5%	12.5%	0.0%			
		2018	90.0%	0.0%	0.0%	10.0%		
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	年度初めに保護者にHP掲載の有無を確認する等、取扱いには配慮している。	2016					今後も個人情報の取り扱いには十分な配慮を行っていきます。	
		2017						
		2018	90.5%	0.0%	9.5%	0.0%		
1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	保護者の方には入園の時の避難場所しか伝えていない。職員には周知しているが、共通の場で丁寧に読み合わせをする等の、徹底には至っていない。	2016					職員間でマニュアルを読み込み、周知徹底を図ります。また職員のみならず、保護者への周知徹底をしていきます。	
		2017						
		2018	66.67%	28.57%	0.0%	4.76%		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	年度	はい	どちらともいえない	いいえ	分からない		保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時の対応	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	今年度、保護者、地域の方を交え、地域開放講座で防災についての取り組みを行った。	2016					<ul style="list-style-type: none"> ・訓練しているかどうか分かりません。 ・最近天災による被害が全国でも多く、災害の備えはこれからますます重要になってくると思います。 	来年度は療育中でのこどもとの訓練も取り入れていきます。
			2017							
			2018	28.6%	9.5%	4.8%	57.1%			
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	今年度、事業所内で研修会を実施。実施した内容を日々の中で実践できるようマニュアル等に加える、今後とも定期的に研修を行う等さらなる工夫が必要。	/						来年度も引き続き研修を行い、職員で共通認識を深めます。またマニュアルを見直していきます。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	昨年度の評価アンケートより検討し、必要に応じて今年度より説明を果たし、支援計画に記載するという方向。現時点で必要な手はない。	/						今後、必要な場合は支援計画書に記載をし、保護者にも丁寧に説明していきます。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には事前に丁寧に確認し、連携をとって対応している。 ・除去等の対応が必要な場合は保護者から医師の診断結果をお聞きすることはあるが、直接指示書等を提出してもらうところまでは徹底できていない。 	/						今後も保護者に事前に丁寧な聞き取りを行うとともに、除去が必要な場合は医師の指示書を提出していただき、適切な対応を行っていきます。
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットが起きた場合はその日の振り返りで共有し、ヒヤリハット報告書を提出。さらに毎月の職員会議で全体共有している。	/						職員会議で共有する際に、報告書で挙げた具体策がその後の療育の中で実践できているかも報告するようにし、同じことを繰り返さないようつとめます。	
満足度	1	こどもは通所を楽しみにしているか	こどもたち1人1人の興味、関心を探りながらこどもの思いに丁寧に寄り添う療育を心がけている。	2016	88.5%	11.5%	0.0%		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが笑顔で朝入口に入っていくところを何度も見ております。 	今後もこども一人ひとりの思いに丁寧に寄り添いながら、個別に応じた療育内容の充実に努めてまいります。
			2017	100.0%	0.0%	0.0%				
			2018	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%			
	2	事業所の支援に満足しているか	自分たちは何を大切にして療育を行っているか共通確認し、それをどう実践していくか、どう保護者にお伝えてしていくか、日々職員間で話し合っって試行錯誤を繰り返しながら療育を行っている。	2016	76.9%	23.1%	0.0%		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎があればうれしく思います。 ・やはりたんぼぼに決めてよかった。職員の方はとても親切、丁寧にこどもの成長を我が子のように喜んでくださいます。ありがとうございます。 	こども1人ひとりの個性を理解し、自己肯定感を育む療育。自発性を尊重し、得意なことを伸ばす療育。たんぼぼの大切にしていることが保護者の方やこどもたちに伝わるよう、日々実践していきます。
			2017	68.7%	25.0%	0.0%				
			2018	85.7%	9.5%	4.8%	0.0%			